

2024年（令和6年）度

語学検定型入学試験 B日程 問題
小 論 文

2023年11月25日 実施

【解答上の注意】 答えは別紙解答用紙に、左横書きで書いてください。

この問題用紙の余白や裏面を下書きなどに利用してもかまいません。

《課題文》

何ですって、学校では、「作文」は教えてくれないが、「英作文」は教えてくれる。なるほど、そうですね。面白いですね。これこそ、本末顛倒、戦後教育の植民地性ということになるのでしょうか、もう情なく思うのにも草臥れました。しかし、考えようによると、「作文」がなくて、「英作文」があるというのは、案外、それはそれで、粹なシステムなのかも知れません。なぜなら、英作文の時の緊張した気持、あの気持で日本文というものに臨むことが、文章修業の大切な出発点であるからです。

英作文では、長い文章など論外で、精々、短い文章です。そして、一字一字、一語一語、一句一句、綴の間違いないか、文法上の間違いないか、片時も鋭い意識を失うことは出来ません。それと同じ鋭い意識を持ちながら、日本文を書いて行ったら、黙っていても、私たちは正確な文章が書けるのです。書けないのは、相当部分、日本語が母国語であることに甘えているためなのです。強い言い方をしますと、私たちが日本語を外国語であるかのように取扱った方が、道が早く開かれるのです。

「母国語しか知らない人間は、母国語も知らない」という意味の言葉があります。誰の言葉であったか忘れてしまいましたが、これは、重たい真実を伝えている言葉です。

第一次世界大戦が終って間もなく、私は中学へ入り、ドイツ語を学びました。当時、日本中の中学が英語を教えていたのに、ただ一つ、私の中学だけはドイツ語を教えていました。ドイツ語の勉強を始めた途端に、変な話ですが、私は日本語というものに気がつきました。ドイツ語でなく、英語でもフランス語でも同じでしょうし、また、これは私だけでなく、誰でも同じであろうと思います。

大きく言えば、哲学の問題になりますが、私たちが或るもの（A）を知るのは、他のもの（B、C……）を知って、それと比較して知るので、Aだけを知っている間は、Aのことも判りません。

私たちは、日本語（A）を母乳と一緒に吸って育てて来ました。日本語は、何でもない空気のように思われ、また、みんな日本語の名人のようなつもりになっています。日本語は、言ってみれば、無意識の底に沈んでいるのです。ところが、外国語（B、C……）の初歩を学ぶや否や、AがBやCと如何に違うか、厭でも、それに気がつきます。BやCとの比較を通して、Aの特徴を知るように——少くとも、感じるように——なります。そうでしょう。つまり、日本語というものが意識され始めて来るのです。

「私は……であります」というのは同じでも、英語の I am……や、ドイツ語の Ich bin……や、フランス語の Je suis……を知る前と、知った後とでは、私たちの気持が違って来ます。日本語というものを、或るフレッシュな態度で見るとなると、

鋭い意識などなくても、フレッシュな態度などなくても、ただペラペラ喋っている分には差支えありません。辻褄の合わぬ文章を書くのに不自由はありません。しかし、差当っては正確な文章、やがては達意の文章、そういうものを書くには、どうしても、日本語に対する鋭い意識、フレッシュな態度が必要なのです。そして、それは、^{ほか} 凶らずも、外国語の勉強が与えてくれるのです。

（清水幾太郎著『日本語の技術』より）

《問題》

課題文を読み、以下の指示に従って答えなさい。

- (1) 筆者が主張する外国語の勉強がもつ意義とは何か、200字以上300字以内で解答欄①に書きなさい。
- (2) 次の問いへの答えを、300字以上500字以内で解答欄②に書きなさい。

問：上記（1）で述べた意義が、外国語以外で発揮されるのはどういったものか。

あなた自身の考えを、具体例をあげながら述べよ。